

氏名

井 上 英 雄

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 乙 第 2256 号

学 位 授 与 の 日 付 平成 3 年 3 月 28 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）

学 位 論 文 題 目 夜尿症の脳波学的研究

論 文 審 査 委 員 教授 大月三郎 教授 庄盛敏廉 教授 森 昭胤

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

夜尿症の病態生理を解明し、その体系的分類ならびに治療方針の樹立に資せしめる目的で、夜尿症404例を対象として臨床脳波学的検討を行い、さらに55例につき終夜睡眠ポリグラフ的検討を行い、以下の知見を得た。

1. 脳波上、てんかん性あるいは非てんかん性異常を呈する症例が多く、夜尿症児には何らかの脳機能障害を背景に有するものが多いことが示唆された。
2. 基礎波の所見では広汎性徐波性律動異常が多く、脳のimmaturityあるいはdysmaturityの存在が示唆された。
3. 皮質下起原の異常波が高率に認められることから、脳幹を含めた皮質下機構の機能障害が、夜尿の発現に重要な意義を持つことが推測された。
4. 終夜睡眠ポリグラフの所見から、夜尿は浅睡眠期に出現することが多く、REM期には少ないことが示された。
5. 夜尿出現時の覚醒反応の有無により、夜尿症を覚醒型と非覚醒型に分類しうることを示した。
6. 夜尿が浅睡眠期のみに出現するものおよび覚醒型の夜尿では、治療効果が良好であることを示した。

これらの知見は、夜尿症の病態生理の解明、分類ならびに予後の推測に有用な情報を与えるものと考える。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は多数例の夜尿症を対象とし、一部の症例には、終夜睡眠ポリグラフを施行した脳波学的研究である。本症例には脳波異常に示される脳機能障害を背景に有するものが多いこと、夜尿の出現は浅睡眠期に多く、覚醒反応の有無による型別があり、覚醒型の方が

治療効果が良好であることを認めた。夜尿症の病態に関して有用な知見を得たものとして
価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。